


生薬解説 261 た一6

音順	生薬名	中医の性味・帰経	中医の用量
中医学生薬解説、参考・使用上の注意		および中医学以外の生薬解説・生薬学解説	
た一6	たいしゃせき 代赭石	苦・寒 肝・心包	9～30g、煎服。外用には適量。
中医生薬解説			
 <p>天然の赤鉄鉱</p>		<p><b>平肝清熱</b> 肝陽上亢の頭痛、眩暈、耳鳴などに、石決明・夏枯草・竜骨・牡蠣・白芍などと用いる「鎮肝熄風湯」「代赭石湯」。</p>	
		<p><b>鎮逆降気</b> 痰濁による暖気、吃逆、嘔吐などに、旋覆花・半夏・生姜などと用いる「旋覆花代赭石湯」。胆火上衝による嘔吐、吃逆には、竜胆草・呉茱萸などと用いる「鎮逆湯」。気逆の呼吸困難に、実喘には蘇子・半夏などと、虚喘には人参・山薬などと用いる。</p>	
		<p><b>涼血止血</b> 血熱の吐血、鼻出血などには、生地黄・白芍・竹茹などと用いる「寒降湯」。外傷の出血に、粉末を外用してもよい。</p>	
		<p>参考 生用すると平肝降逆に、煅用すると止血に働く。</p>	
		<p>使用上の注意 湯剤では先煎する。 苦寒重墜に働くので、寒証、妊婦には禁忌である。</p>	
		中医以外の生薬解説	
神農本草経		味苦寒、鬼疰賊風蠱毒を主どり、精物悪鬼腹中の毒邪氣を殺し、女子の赤沃漏下を主どる。	
新古方薬囊		よく熱を取り、ふやけたるを固むる働きありと為す、之れ旋覆花代赭石湯に用ひらるる理由なるべし。	